

2 吉岡町の動き

(1) データで見る吉岡町

①人口が増加する町

国勢調査による令和2年(2020年)の人口は21,792人で、昭和40年(1965年)以降、人口増加が続く全国的にも数少ない自治体の一つです。

都市計画道路などの道路網の整備が進むとともに、駒寄スマートインターチェンジの大型車両の供用開始により、これまで以上に産業の活性化、観光の振興等が見込まれるなど、さらなる生活の利便性向上が期待されます。

県内で3番目に小さいコンパクトな町ですが、5年間の人口増減率は3.38%と県内1位、1世帯当たり人員は2.77人で県内4位となっており、家族で住む人にも選ばれ、にぎわいのある町です。

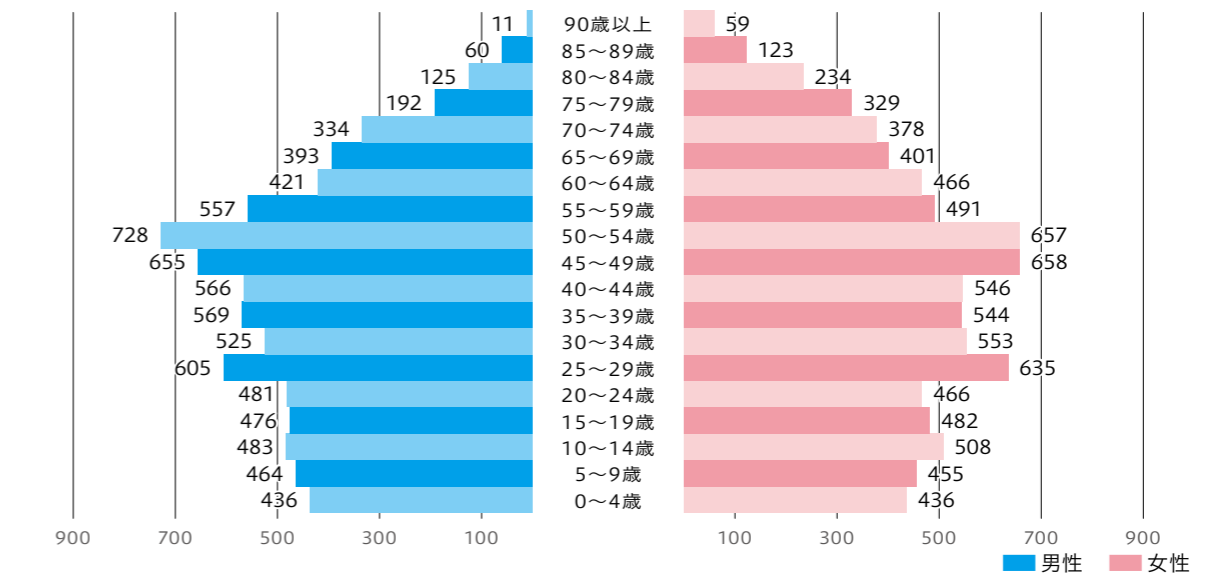
	面積 (km ²)		世帯数 (世帯)		人口総数 (人)		5年間の人口増加数 (人)		5年間の人口増減率 (%)		一世帯当たり人員 (人)		人口密度 (1km ² 当たり) (人)	
	面積	順位	世帯数	順位	人口総数	順位	増加数	順位	増減率	順位	人員	順位	人口密度	順位
吉岡町	20.46	33	7,863	16	21,792	16	712	5	3.38	1	2.77	4	1,065.1	7
渋川市	240.27	11	29,114	7	74,581	7	-3,810	33	-4.86	18	2.56	12	310.4	17
榛東村	27.92	30	5,116	21	14,216	19	-113	7	-0.79	6	2.78	3	509.2	11
前橋市	311.59	7	141,882	2	332,149	2	-4,005	34	-1.19	7	2.34	28	1066.0	6
高崎市	459.16	2	160,981	1	372,973	1	2,089	3	0.56	5	2.32	30	812.3	9

資料：令和2年国勢調査
■は県内35市町村の順位

②人口特性と課題

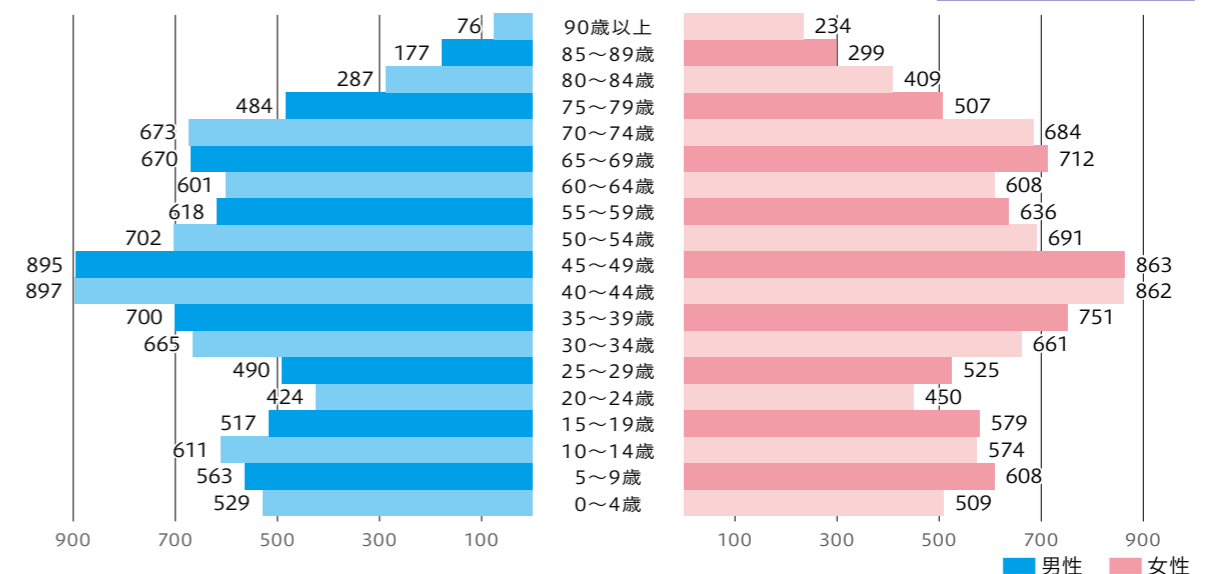
国勢調査による令和2年(2020年)の総人口は21,792人で、20年前の平成12年(2000年)の16,504人を100とした場合に132となり、人口は増加傾向にあります。他方、人口構成割合をみると、15歳未満の年少人口割合が減少し、65歳以上の老年人口割合が増加しており、少子高齢化は本町においても進行しています。

2000年の人口構成割合



平成12年国勢調査による年齢不詳の人数は全体で2人。

2020年の人口構成割合

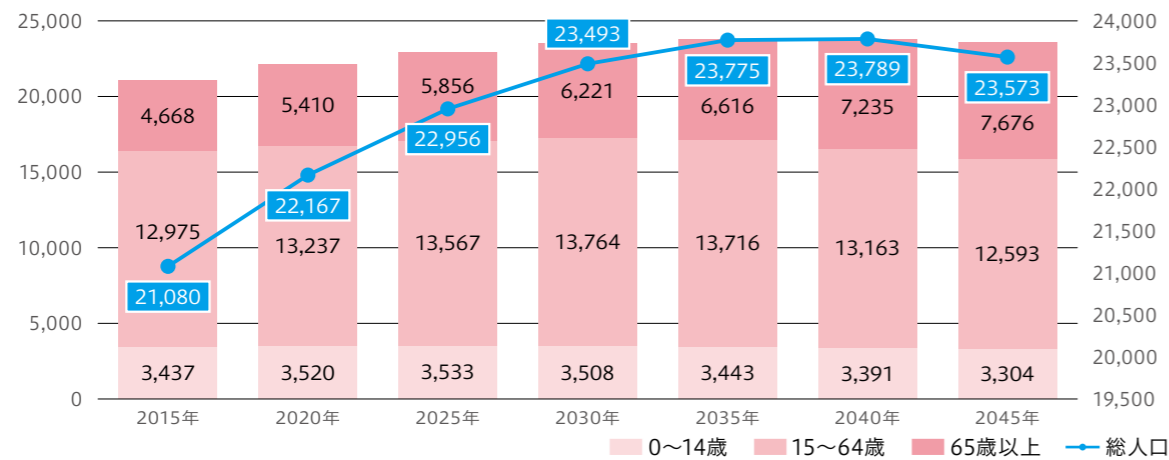


令和2年国勢調査による年齢不詳の人数は全体で51人。

③人口の将来展望

国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」によると、本町の将来人口は 2040 年の 23,789 人をピークに増加傾向で推移し、その後減少に転じることが予測されています。

また、人口割合をみると、2040 年には 65 歳以上が 30% を超え、0～14 歳と 15～64 歳は割合が減少し、今後も少子高齢化は進んでいくことが予測されています。

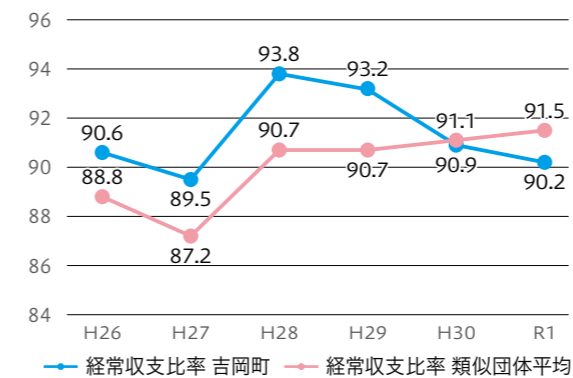


	人口			割合 (%)			
	総人口	0～14 歳	15～64 歳	65 歳以上	0～14 歳	15～64 歳	65 歳以上
2015 年	21,080	3,437	12,975	4,668	16.3	61.6	22.1
2020 年	22,167	3,520	13,237	5,410	15.9	59.7	24.4
2025 年	22,956	3,533	13,567	5,856	15.4	59.1	25.5
2030 年	23,493	3,508	13,764	6,221	14.9	58.6	26.5
2035 年	23,775	3,443	13,716	6,616	14.5	57.7	27.8
2040 年	23,789	3,391	13,163	7,235	14.3	55.3	30.4
2045 年	23,573	3,304	12,593	7,676	14.0	53.4	32.6

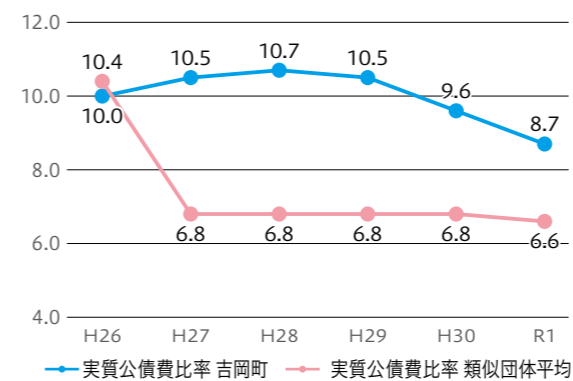
※国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」から作成

④町の財政状況

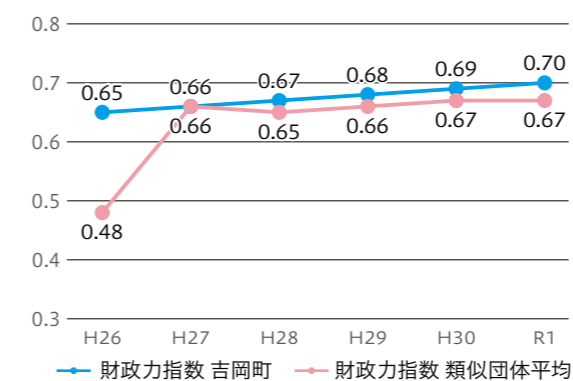
経常収支比率の推移



実質公債費比率の推移



財政力指数の推移



経常収支比率^{※1}は、平成 28 年度以降、減少傾向にあり、財政構造の硬直化に改善が見られません。類似団体と比較して直近 2 年は低い水準を示しています。

実質公債費比率^{※2}は、平成 28 年度以降、減少傾向にありますが、類似団体と比較して高い水準となっており、今後予定される大型建設事業に係る公債費支出の増加による上昇が懸念されます。

人口増に伴う町税の堅調な増加等に起因して、財政力指数^{※3}は類似団体平均を上回っており、比較的財政力が高い町と言えます。

しかしながら、人口増に起因した扶助費や施設の狭小化・老朽化に伴う建設事業費などの増加が大きな課題となっており、引き続き事業精査による歳出削減、補助金・交付金の有効活用などにより、地方債の発行を抑制し、財源確保に努めていかなければなりません。

近年の環境変化の背景を踏まえ、時代に即した効果的・効率的な基礎自治体としての行政基盤を確立するため、たゆまぬ行政改革を推進していく必要があります。

「類似団体」

総務省において、態様が類似している地方公共団体ごとに作成されている類型のことで、市（政令市、中核市、特例市を除く。）及び町村の類型については、団体の人口及び産業構造に応じ区分されます。本町の類型は、平成 25 年以降「V-2」とされています。

※1 経常的な経費（人件費、扶助費、公債費など）の支出のために経常一般財源収入がどの程度使われているかを示すもので、財政の弾力性を図る指標です。比率が高いほど財政の硬直化が進んでいることを表し、80.0%以内が望ましいとされています。
 ※2 公債費や公債費と似た性質を持つ経費が、一般財源のうちどのくらいの割合を占めているのかを指標化したものです。この比率が低ければ低ほど公債費等の支払いに充てず、他の事業などに自由に使える財源が多いことを示して、25.0%が早期健全化基準とされています。財政健全化法によれば、18%以上で地方債の発行に際し許可が必要となり、25%以上で単独事業に係る地方債が制限され、さらに 35%以上で一部の一般公共事業債について制限されます。
 ※3 地方公共団体の財政力を示す指数で、基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去 3 年間の平均値です。財政力指数が高いほど財政に余裕があることを示し、この指数が 1 を超える場合は普通交付税の不交付団体となります。

(2) アンケート結果からみる吉岡町

① 調査目的

町の現状評価や定住意向をはじめ、今後期待するまちづくりの方向や各分野における施策要望など、住民の意識構造の実態を把握し、計画づくりの基礎資料とするため、アンケートを実施しました。

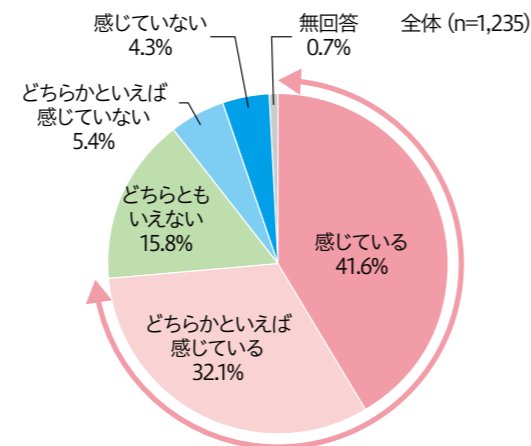
② 調査概要

調査対象	町内に居住する16歳以上の住民	配布数	2,500票
抽出方法	無作為抽出	有効回収数	1,235票（回収数1,238票）
調査方法	郵送法（郵送による配布・回収）	有効回収率	49.4%（回収率49.5%）
調査期間	平成30年11月～12月		

③ 町への愛着について

- 愛着を『感じている』という人が73.7%となっています。
- 一方、愛着を『感じていない』は9.7%にとどまり、総じてまちへの愛着度は高いと言えます。

※『感じている』は「感じている」と「どちらかといえば感じている」の合計。『感じていない』は「どちらかといえば感じていない」と「感じていない」の合計。

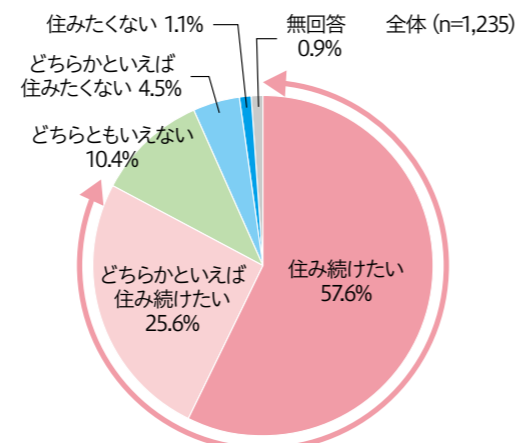


愛着を「感じている」73.7%

④ 今後の定住意向について

- 『住み続けたい』という人が83.2%となっています。
- 一方、『住みたくない』は5.6%にとどまり、定住意向は強いと言えます。

※『住み続けたい』は「住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」の合計。『住みたくない』は「どちらかといえば住みたくない」と「住みたくない」の合計。



「住み続けたい」83.2%

(3) 住民・団体ワークショップ

住民の方が何を感じ、何を将来の課題と考えているかを把握し、協働のまちづくりのもと、計画策定を進めるため、ワークショップを開催しました。

実施日	会議名
令和2年10月26日	第6次吉岡町総合計画策定に関わる住民ワークショップ（第1回）
令和2年11月13日	第6次吉岡町総合計画策定に関わる住民ワークショップ（第2回）
令和2年12月7日	第6次吉岡町総合計画策定に関わる住民ワークショップ（第3回）
令和3年3月5日	第6次吉岡町総合計画策定に関わる団体ワークショップ

住民ワークショップ 第1回

	自慢できるところ	改善した方がいいところ
交通	道路交通の利便性の高さ 利根川サイクリングロード	安全な道が確保されていない 公共交通の不足 街灯の少なさ 高齢者の交通手段の不足
施設	町老人福祉センター（町社会福祉協議会の活動）	映画館や図書館の分館の不存在
自然環境	城山みはらし公園 全体的な自然環境の良さ	河川の魚道が見受けられない 河川汚染の著しさ
社会環境	環境の静けさ	街灯や防犯カメラの不足
人的環境	あいさつをしてくれる人の多さ 「ふれあいいきいきサロン」の活動の活発さ	横のつながりや集まりの不足
人口	人口（若年層）の増加	子どもの増加に対する防犯体制の不足
生活	買い物の利便性	ごみの出し方のマナー
福祉	—	介護の負担 障害のある方・高齢者の居場所の確保
防災	自然災害の少なさ	防災無線の聞き取りづらさ 獣害
防犯	治安の良さ	防犯カメラの不足
子育て、教育	タブレット配布の迅速さ 子どもの多さ	公園の少なさ 学校教育休職中の学童保育の不存在

住民ワークショップ 第2回

	さらに伸ばしていくべきところ	改善した方がいいところ	将来の方向性および具体策
教育	あいさつの良さ ナイター付きスポーツ施設の増築	学校の不足 治安面の不安	学校数の充実 スポーツの機会の増大 スポーツ施設の整備 地域の見守りの強化
文化	文化財関連	祭り・信仰関連	文化財関連 文化センター関連 祭り関連
産業	大型店の競合で 消費者にとっては買い得	働く場所の不足	企業・小売店誘致
農業	野菜・果物関連	農家の減少	農地の有効活用 広報・PR 高齢者・障害のある方の雇用 乾燥いも
その他	—	公園の整備	—

住民ワークショップ 第3回

	さらに伸ばしていくべきところ	改善した方がいいところ	将来の方向性および具体策
健康・福祉	健康 NO.1 事業 ラジオ体操 地域の施設サービス等	ボランティア・地域活動 関連の人材確保 その運営の困難	自治会・地域社会関連 ボランティア関連
生活・環境	防災訓練 ゴミの回収	道路等の整備 公共交通等の整備 スポーツ施設の整備 避難方法が不明 避難所に対する不安 ごみ出し	自治会の活発化 公共交通の整備

団体ワークショップ

	さらに伸ばしていくべきところ	改善した方がいいところ	将来の方向性および具体策
安全・安心	集まりの場の確保 健康診断等 体操教室	行事参加 公共交通等の整備	交通網等の整備 声かけ活動等
教育	ICT教育 施設の整備 活発なスポーツ活動 生涯学習の推進 地域住民の交流の活発化	ICT教育 子育て支援 文化・芸術関連 生涯学習の推進	地元愛を育む教育 特定の科目に特化した 教育者の確保 住民の立ち寄れる場所の 確保 スポーツ施設の確保 地域住民の交流の活発化
インフラ*	交通網の整備 公園の確保	交通網の整備 公園の確保	公園の確保 サイクリングロード・ 吉岡川関連の観光整備

※インフラに関するご意見として、「さらに伸ばしていくべきところ」と「改善した方がいいところ」にそれぞれ交通網関連と公園関連が挙げられています。この理由として、交通に関しては町内から近隣へのアクセスの良さが評価される一方、町内から町内へのアクセスが課題とされていることが挙げられます。また、公園関連に関しては人口の増加に見合ったさらなる整備が求められていることが挙げられています。



(4) 中学生ワークショップ

実施日	会場
令和3年6月14日	吉岡中学校図書室

10年後成人している中学生に、「どういった町になってほしいか」を考えてもらいたいとし、中学生が楽しみながら参加できるようゲーム性のあるまちづくりワークショップを開催しました。

中学生ワークショップで提案された50を超える施策(類似の内容を含む)

A. 「住みよい都市基盤と自然」分野の 施策アイデア

交通網の整備に関する提案が目立ちました。

例えば、街灯、ミラー等の整備、バス又はレンタルバイク等の整備、吉岡町に駅をつくることや通学路の整備がそれぞれ複数回挙げられました。また、公園を増やすことやごみ処理関連に関してもそれぞれ複数回挙げられました。その他として吉岡町に高校をつくること複数回挙げられました。

B. 「商工・観光・産業の振興」分野の 施策アイデア

観光資源の開発に関する提案が目立ちました。

例えば、人が集まってくる施設を作ることが複数回挙げられました。また、名物や特産品を開発することや商店やショッピングモールをつくることに関してもそれぞれ複数回挙げられました。

の概要をゲーム設定上の4分野別に記載します。

C. 「防災・健康・福祉」分野の 施策アイデア

高齢者・障害者福祉に関する提案が目立ちました。

特にこれらの人々に対する各種サービスの提案が挙げられました。

D. 「住民主導のまちづくり」分野の 施策アイデア

地域社会の活性化に関する提案が目立ちました。

例えば、地域活動の実施やボランティア活動の実施がそれぞれ複数回挙げられました。

6
月
14
日
月
曜
日
日
直

群
馬
花
吉
岡
太
子
郎